

変わり続ける花卉園芸学研究室

花卉園芸学研究室修士課程 1年

土屋 慶 輔

柏の葉キャンパスの周辺では、大型商業施設が拡張されたり、大規模な都市計画が進行していたりと日々その姿を変え続けています。それは研究室においても同じことが言えます。ここでは柏の葉キャンパス花卉園芸学研究室の今をお伝えしたいと思います。

柏の葉キャンパス花卉園芸学研究室の現在

千葉大学柏の葉キャンパスに花卉園芸学研究室が設立されてから早3年が経過しました。現在では、渡辺先生・金谷先生をはじめとする教職員、技術職員の方々にご指導をいただきながら12名の学生が切磋琢磨しております。現在の花卉研の最大の特徴は、研究の多様さです。学生の研究テーマを紹介すると、系統地理学、施設緑化、花や葉の香気成分、花色、葉の黄化、植物の耐塩性、薬用植物とその利用など幅広い研究を行っています。合言葉である「生産から流通まで」に加えて、現場での利用までを視野に入れ、園芸学に遺伝学や薬学の要素を含みながら多様な研究を創造しています。

昔も今も変わらないところ

花卉研の今も昔も変わらないところは、やはり学生の共闘姿勢ではないでしょうか。それぞれの研究分野が全く異なるから私は関係ないというわけではありません。真夜中まで一緒にヨモギの葉を採取したり、実験用植物の挿し芽をしたり、計測の手伝いをしたりとさまざまです。そのような環境にあるせいなのか、学生の思いやりの心が発達しているように感じます。何気なく夕食を食べている時も、「アイツの実験が今は辛そうだし声をかけてみるか? (本人が気づかないところでも) こんな作業をしておく負担が減るかな?」など話し合いが生まれることが多々あります。一方で手伝いを依頼する学生は、どのように指示を出したら間違えが起こらないだろうか、人員配置はどうすれば効率が良くなるかなど、大人数で動く際のマネジメント能力を身につけ、また、前回の恩返しと言わんばかりに他人が困っている際に率先して助けに取り組む姿勢も見られます。このように、1つの物事をみんなで乗り越えていく姿勢は昔と変わらないところがあるのではないのでしょうか。

学生のこれから

柏の葉キャンパスに通学していると、様々な分野の方々との交流があります。例えば、薬学の先生方と交流があり、共同作業やゼミをご一緒して下さったり、研究の話をしていただくこともあります。また、共同研究の方や植物工場に勤めている方、先生のお知り合いの方と社会や将来に関することをお話しさせていただくこともあります。そして、柏の葉キャンパスには現在十数名の留学生がおり、お酒を交えながら故郷のことを話したり、それぞれの研究について頭をフル回転させながら不慣れな英語で会話をすることもあります。このような多様な交流から、私たち学生だけでは考えもしなかった発想や価値観に巡り合います。私は大学生という限られた期間において、貴重な経験の多いこの環境をととても嬉しく思います。そして私たち学生の課題は、数々の経験から得られた情報を自身の中で熟考し、どのように還元していくのかを導き出す、柔軟な思考力と積極的な行動力を身につけていくことだと考えています。

花卉研での学生生活は自分磨きの毎日です。花卉業界は今後、東京オリンピックなど大きなイベントを控え、大きく変わっていくと思います。そのような変化で生じる多様なニーズにどれだけ応えられるか、どんな場面で自身の力を発揮できるか、対応できる力を大学生活でどこまで身につけられるのか。栽培だけではなく、利用用途が多様化する花卉の世界に自分たちはどんなアプローチができるのかを模索しながら、長いようで短い大学生活を満喫していきたいと思います。今後みなさまからのご支援をよろしくお願いいたします。

